

令和3年度（補正予算）独立行政法人福祉医療機構助成金  
「当事者主体の居場所・地域協同プラットフォームづくり事業」  
報 告 書

2023年（令和5年）3月  
特定非営利活動法人ワーカーズコープ  
（2023年4月1日より、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）

●目次

1. はじめに

2. 本助成事業の概要

(1) 事業の概要

(2) 対象地域

3. 本助成事業の実績

(1) 相談・交流会

1) 事業目的 2) 事業内容 3) 実施地域 4) 事業実績 5) 各地域の状況

(2) 地域づくり・仕事おこし講座

1) 事業目的 2) 事業内容 3) 実施地域 4) 事業実績 5) 各地域の状況

(3) フードバンク・フードパントリー

1) 事業目的 2) 事業内容 3) 実施地域 4) 事業実績 5) 各地域の状況

(4) 居場所づくり

1) 事業目的 2) 事業内容 3) 実施地域 4) 事業実績 5) 各地域の状況

4. まとめ

(1) 本事業を通じて

(2) 今後の課題に向けて

## 1. はじめに

コロナ禍において、それ以前から潜在してきた生活困窮問題、孤立・孤独の問題、地域コミュニティの課題は、この間のコロナ禍による失業や他者との関係性の喪失、活動の規制等による精神的なストレス等によって問題を加速化、深刻化させていきました。このような日本社会の多様で重層的な問題に対して、当団体は「地域主体」と「当事者主体」をテーマに、多様な事業・運動に取り組んできました。そして、活動をより本格化するため、令和3年度の独立行政法人福祉医療機構助成金を受け「当事者主体の居場所・地域協同プラットフォームづくり事業」として、以下の通り実施しました。

## 2. 本助成事業の概要

### (1) 事業の目的

コロナ禍で生活困窮により社会とのつながりを断たれた方々が地域の中で孤立状態にならないように、つながり続ける関係を地域で構築する必要があります。そこで、物資支援を行うだけではなく、生活を支えること・その人が地域の中で多様な関係をつくり、孤立を生まないこと・その人らしく活躍できる場をつくり出すことを事業の目的に置きました。

### 【これまでの取り組みと課題】

当団体は既存の事業を通して生活困窮者や困難な状況にある児童・家庭と出会い、フードバンクや他団体と連携した就労支援の相談会、地域交流活動を実施してきました。令和3年度は厚生労働省「生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成事業」を受託し、4都県（東京都、千葉県、埼玉県、長野県）で実施してきました。

派遣切りで突然仕事を失い困窮に陥る女性や外国籍就労者、居住地を失う世帯が増加傾向にあります。自営業や飲食業等の相次ぐ倒産で、コロナ禍以前より就職先が減少し再就職が困難になっています。仕事を求めて上京しても仕事が見つからず、知らない地域で孤立する若者等、生命に脅かすほど生活困窮が深刻化しています。

また、休校により困窮に陥る大学生や地域から孤立して虐待問題が悪化する児童も増加しています。クラスターを気にするあまり、家族から施設の利用控えを余儀なくされる高齢者や障害者が一層地域から孤立していることも分かりました。こもりきりになり、認知症が進行したり、身体が悪化する事態も生じています。さらに、社会復帰を目指していたひきこもりの人もコロナ禍により再び社会から孤立する事態も生じています。

### <見えてきたニーズ>

生活困窮により断たれた社会とのつながりの創出が必要な人をはじめ、当事者が地域の中で孤立状態にならないような、つながり続ける関係を構築する必要があります。

生活物資の支援を行うだけでなく、生活を支えること・生活困窮者が地域の中で多様な関係をつくり、孤立を生まないこと・その人らしく活躍できる場を地域からつくり出すことが課題であると考えています。

### ○事業名

当事者主体の居場所・地域協同プラットフォームづくり事業

### ○主な取り組み

「コロナ禍による生活困窮者・ひきこもり等の解決に向けて、孤立を無くし、一人ひとりの力を発揮させる場づくり、支え合いの地域づくり」が実現することを目的に、物資支援、相談・交流事業、講座などを実施し、居場所づくりや当事者と共に就労創出する以下の事業を実施しました。

### <具体的な事業>

1. 各地の支援団体・機関と連携し、生活困窮者等の相談会・交流会の開催
2. 各地の拠点等を利用し、「地域づくり仕事づくりの講座」の開催
3. 各地のフードバンクとの連携と各地域拠点でのフードパントリー
4. 日常的な相談や活動拠点となる居場所「みんなおうち」づくり

### (2) 対象地域

- ・埼玉県戸田市・千葉県習志野市・神奈川県藤沢市・長野県松本市、・福井県福井市
- ・東京都（豊島区、北区、板橋区、江戸川区、品川区、八王子市）

### 3. 本助成事業実績

#### (1) 相談会・交流会

##### 1) 事業目的

参加者との出会いを通じて、就労や就労体験などにつなぎ、生活支援と合わせて継続的な関わりを持つ。また、交流の機会を生かして参加者を中心にした仕事おこしに向かう。

##### 2) 事業内容

###### ①仕事さがし・仕事づくり交流会

###### ②日常生活の相談事業

##### 3) 実施地域

埼玉県戸田市

東京都（豊島区、板橋区、北区、江戸川区、品川区）

長野県松本市

福井県福井市

##### 4) 事業実績

地域	相談延べ人数	備考
埼玉県戸田市	180人	
東京都豊島区	15人	
東京都板橋区	24人	
東京都北区	2910人	(4) 居場所事業と重複
東京都江戸川区	55人	
東京都品川区	127人	
長野県松本市	2155人	
福井県福井市	15人	

##### 5) 各地域の状況

###### ○埼玉県戸田市

戸田市の生活困窮者自立支援センターと連携し、就労や日常的な生活のことについて相談を受けました。また、地域の方々からのちょっとした困りごとや軽作業等仕事を受け、体験等を通じて就労に向けた活動を行いました。

常設開設の居場所「ぼけっと」の運営により、日常的に事務所を開放し、お茶などで交流を深め、気軽に立ち寄れる場所として、地



域の方々との交流を図ってきました

相談された方々の中には就労意欲の向上が見られ、現在就労を始めた方もいます。生活の困りごとを解決する取り組みを地域に発信することで、社会福祉協議会と連携を通して、近隣の高齢者から軽作業の依頼があるなど、地域の相談場所としての一定の成果があらわれています。

### ○東京都豊島区

一般社団法人反貧困ネットワークと共催し、東京都内と千葉県、埼玉地域対象の合同相談会を開催しました。当初は、コロナ禍により切迫して生活に困窮した方たちを就労につなげることを中心に相談を実施していましたが、相談者が外国籍の方や孤立状態にある方も多く、今年度は就労につなげるだけでなく、交流の場を設けて、居場所や仲間づくりにつなげてきました。



新宿区にあるワーカーズコープの事業所では、就労につなげるだけでなく、資格取得のための講座を開催したり、実際に事業所で共にはたらく仲間として迎え入れています。



※相談交流会を7月17日に豊島区で開催。その後、新宿区周辺地域に限定して本事業の予算外で定期開催しました。

### ○東京都板橋区

障害児支援施設の空き時間を活用して、主に平日の午前中に自由に入出りできる窓口を設置。福祉専門職員が中心の相談員となり、若者や子育て世代、高齢者等多世代にわたって生活相談・就労相談を行いました。



鍵の紛失や携帯電話の使用方法がわからずに生活に困っている独居高齢者や、自身が障害を持つ母親から特技を生かした就労先の相談等多岐にわたる相談がありました。

複合的な課題を抱えた相談（困窮世帯で8050世帯のひきこもり問題等）に対しては、連携している支援団体やワーカーズコープの事業所と連携して課題解決に取り組んでいます。



一方で、相談そのものを遠慮して支援機関に足を運ばない方や支援団体の存在を知らずに地域で孤立する方々が潜在している課題が見えてきました。

## ○東京都北区

「みんなのお店」というコミュニティカフェを常設し、日常的に相談できる環境をつくりました。対象者は問わずに、誰でも立ち寄れるカフェとして開放していたところ、特に近隣の一人暮らし高齢者が中心に集まる場となっています。

もともとカフェを利用していた一人暮らし高齢者の複数名がボランティアとなって当事業所職員と一緒にカフェを運営しているため、お客としてくる高齢者が同世代のボランティアと過ごすことで、孤立解消の場となっています。また、会話の中で出てくる悩み事や困り事をていねいに拾い上げて、必要に応じて生活支援につなげています。



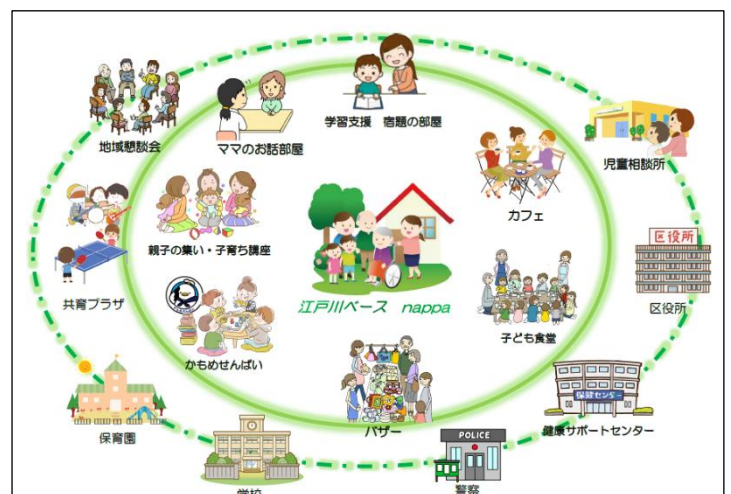
## ○東京都江戸川区

総合福祉拠点みんなのおうち「江戸川ベースnappa（以下「nappa」）」を常設しています。相談会の一つとして、東京都助産師会と江戸川区区分会と共同で「るるるの会」を月に1回開催してきました。育児中の母親の孤立問題に対して、定期開催することで子育てや生活、家族の悩み等を解消する場となっています。



江戸川区では独自でひきこもり実態調査も行き、ひきこもり支援を重視しています。自治体やひきこもり相談支援員から、紹介をされた地域の不登校児やひきこもり経験の若者が学校以外で集える場となり、勉強や畑作業等も行う規則正しい生活スタイルと就労の練習の場となっています。

元寿司職人のひきこもりの方がnappaに通う中で、様々な理由で独居している家庭へ寿司を握り、お弁当を調理する（有料）という就労機会を得ています。さらに、そのお弁当配達に別のひきこもり経験の男性が対応するという実践が生まれています。



### ○東京都品川区

子育て中の母親の中で、「シングルマザー」や「生活困窮」の家庭に重複する課題が多いことから、子育てや生活、家族の悩み等の相談の場(おやこ広場)を開催しました。悩みの解決と合わせて、日常生活で孤立する母親同士で「友達づくり」「情報共有」も目的にしています。

「家族関係」「生活困窮」等の個別対応が必要なものに関しては、主催団体・共催団体と共に(子育て関係は「ワーカーズコープ」家族関係は「地域包括センター」生活困窮関係は「大田区社協」等)役割を持って臨み、悩みに対して解決へ向かいました。

相談会後も共催団体や協力団体と、相談会を受けてどのような地域の支援ネットワークをつくるかを話し合っています。

今年度は、3カ月間のみで開催だったため、今後は継続性を持った相談会を検討していきます。



### ○長野県松本市

総合福祉拠点「みんなのおうち集い場ふらっと」を常設しています。日常的に相談できる環境をつくり、常に人がいることで地域の方々が来たいときにいつでも立ち寄れることで孤立を解消、コミュニティを広げてきました。また、平日に同世代がいない日中の時間帯に引きこもりの子どもや若者が行きやすい場となっています。困窮世帯に限らず、一人暮らし高齢者をはじめ日常的に孤立している方たちの集える場になっています。

活動を通して、話題に出てきた何気ない日常の困りごと(買物や病院の付き添い等)を地域住民の任意組織(「まちラボ」)につないだり、多機能拠点としての機能を果たしています。





## ○福井県福井市

当団体事業所の事務所1階の空きスペースで地域cafeを月に2回開催し、居場所と合わせて相談会として開放していました。

以下に記載している「まちづくり講座」「地域カフェ」「学習会」などで知り合った方々から、様々な日常的な相談を持ち掛けられるようになりました（近隣の独居高齢者や困窮世帯のこと、ひきこもり経験の若者の孤立等）。事業所で対処できることは事業所で、そうでないものについては、課題に詳しい方や専門機関を紹介することにより、そこでの新しいつながりが生まれ双方がより良い方向に動いています。



### 【各地域から見えてきた成果と課題】

地域の中で、相談会や相談窓口を設けることで、相談そのものを遠慮して支援機関などに足を運ばない方が、気軽に相談できる場が生まれるという有効性があると分かってきました。それにより、地域に潜在する困窮世帯やひきこもり経験のある方と出会う機会が生まれ、問題や課題解決につながるという事例も見られています。

豊島区や江戸川区の実践のように、困窮者やひきこもり経験当事者の方が、困難を抱える方々を支える担い手となり、「支え合う」関係が地域の中でも生まれています。

一方で、受けた相談自体が複雑で深刻な場合もあり、さまざまな支援機関や団体の支援や協力が必要な場合もあり、どの地域においても、お互いに受け止め合えるネットワークをつくること、そのための社会資源の開拓が継続した課題です。

### （２）地域づくり・仕事おこし講座

#### １）事業目的

講座事業を通して、当事者自身が福祉の担い手となったり、自身が主体となって地域に必要な仕事づくりに向かう。

#### ２）事業内容

- ①まちづくり講座
- ②仕事おこし講座

### 3) 実施地域

埼玉県戸田市、神奈川県藤沢市、長野県松本市、福井県福井市

### 4) 事業実績

地域	参加延べ人数	備考
埼玉県戸田市	127人	まちづくりフォーラム…40人 まちづくり講座…87人
神奈川県藤沢市	26人	
長野県松本市	131人	
福井県福井市	129人	

### 5) 各地域の状況

#### ○埼玉県戸田市

##### i) 仕事おこしフォーラム (4月開催)

戸田市では、当団体に取り組んでいた仕事おこしの実践を発表し、協同労働を切り口に多様な就労の可能性について、参加者と共に学び合いました。その後、参加者と困窮問題やひきこもりや高齢化等の地域課題に対する意見交換を行い、地域に必要な仕事づくりへの関心が生まれました。結果的にまちづくり講座の参加につながっています。

##### ii) まちづくり講座

戸田市での高齢者、生活困窮者、子どもとテーマ別に地域課題を行い、仕事おこしフォーラムからさらに深く掘り下げてきました。講座で出た課題から地域活動の具体的な取り組みを行うための意見交換をし、地域の方々と一緒にまちづくりを行うことを啓発する機会になっています。



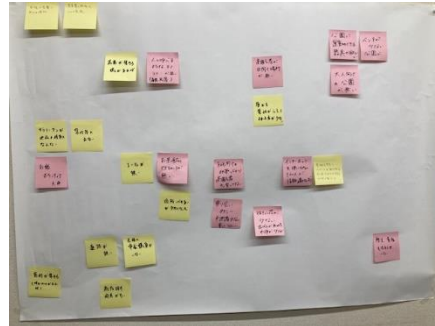
#### ○神奈川県藤沢市

長後地域住民を対象に、まちづくりへ向けた「長後まちづくり講座」を実施しました。1回目の講座の中で地域の現状や課題（孤立や貧困、子どもや若者の健全な成長の見守り等）と住民同士の手でつくるまちづくり等を考える機会にしていました。

さらに、自分たちの手で理想的なまちづくりを目指すための一つの方法として、協同労働

働というしくみ等も学び、課題の共有から見えてきた自分たちができる活動、やりたい活動をいくつか出し合ってきました。

2回目の講座では、1回目の参加者と「やってみたい事」を具体的に話し合い、実際に活動するために向かう準備会が結成されています。



### ○長野県松本市

地域の専門家や特技を持つ住民、大学生等様々な人が得意なテーマで講座を企画しました。地域の困りごとにつながるテーマで講座を企画し、より多くの人に関心を持って参加してもらう機会になっています（例：認知予防、遺言書の書き方講座、育児講座等）。

さまざまな講座やイベント等も企画することで様々な世代や共通の関心を持った方が集まりやすい機会をつくることができました。多様な参加者が増えたことで、地域の方たちから「ふらっとを使って何かやってみたい」と、企画の相談をする方も出てきています。

今後、より多くの方に活用してもらうために、外部への発信を高めていく必要性を感じています。また、学習支援や子ども関係のイベントはより年齢の近い大学生に多く関わってもらうことで、子どもたちが気軽に参加しやすくなるため、今後は大学生との企画や地域課題等についてより関係を深めていくことがこれからの課題となっています。



### ○福井県福井市

参加者との出会いを大切にし、その出会いから広がる「地域への想い」や「課題解決」に取り組む方法を共有し、「まちづくり講座」を開催してきました。

1回目の「まちづくり講座」で、地域課題や地域づくりに強い関心を持つ自助グループ（摂食障害等）の方々や地域住民、市民協働・ボランティア推進課や社会福祉協議会の職員の方々まで様々な出会いがあり、それぞれの課題を持ち寄り話をすることができました。講座終了後も、その良い関係性は続き、色々な事を共有し、それぞれの地域課題を持ち寄り話をすることができました。

この出会いをこのまま終わらせてしまうのはもったいないと、「まちづくり講座・第2

弾」を実施しました。皆が今後に向けて継続していきたい思いを持ち、講座参加者と2023年度も地域の方たちと共に続けていくことになっています。

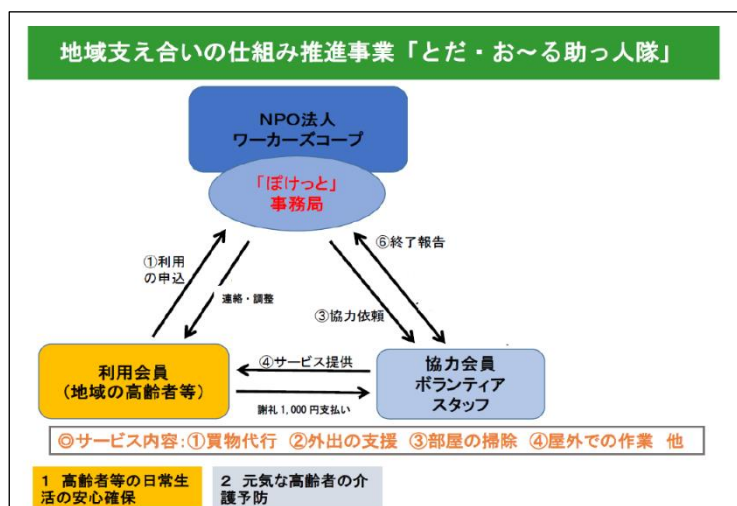


### 【各地域から見てきた成果と課題】

どの開催地域も、「まちづくり」をテーマに講座を開催することでまちづくりや地域課題に関心をもつ地域住民が参加し、お互いに出会い、想いを出し合い、話し合う機会となりました。また、講座だけにとどまらず、講座で話し合ったテーマ解決に具体的に向かうための仕事づくりや地域づくりの準備会が各地で開催されています。

埼玉県戸田市では、住民が地域の支え手となるしくみ「戸田・お～る助っ人隊」（下図参照）を、地域の中で広めることを目指して活動してきました。戸田市民やワーカーズコープ組合員が助っ人隊に登録、地域包括支援センターや地域の高齢者などの依頼を受け、助っ人隊メンバーとのマッチングを行い、無料で支援サービスを行うしくみができています。仕事おこしフォーラムやまちづくり講座で出会った住民も一員となり、地域で活躍する機会が生まれています。

その反面、しくみができ  
てから継続性を持たせる  
ためには、ボランティアでは  
意欲や想いで維持させる  
ことが必要となり、担い手  
を増やしたり後継者という  
面でむずかしさも出てきて  
います。戸田のように有償  
性も時には必要になるた  
め、合わせて「事業化」を  
考えていくことも課題とな  
っています。



いずれの地域でも、継続した講座の開催と共に、ワーカーズコープが構想している居場所機能「みんなのおうち」（総合福祉拠点）にどう向かうかが、課題となっています。

### (3) フードバンク、フードパントリー

#### 1) 事業目的

各地域のフードバンクと連携し、コロナ禍による社会的・経済的困窮状況にある方たちに対して食材の提供を行うフードパントリーを実施し、食材提供時に、相談を受けることのできる環境づくりと交流の場を企画する。

#### 2) 事業内容

フードバンク・フードパントリー

#### 3) 実施地域

埼玉県戸田市、千葉県習志野市、東京都江戸川区、長野県松本市

#### 4) 事業実績

地域	相談延べ人数	備考
埼玉県戸田市	215人	世帯で数えていたため、明確な人数は不明
千葉県習志野市	875人	1回あたり35人
東京都江戸川区	264人	パントリー72人、お弁当宅配192人
長野県松本市	360人	1回あたり12人

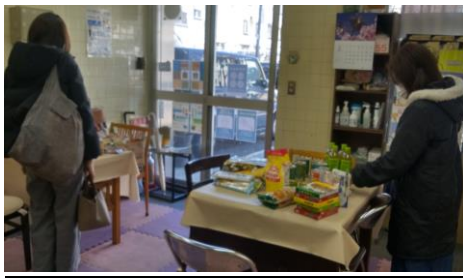
#### 5) 各地域の状況

##### ○埼玉県戸田市

毎月実施し、特にコロナ禍で困窮する家庭に昨年度から継続的に取り組んで提供しました。フードバンク埼玉、コープみらい、社会福祉協議会等との協力から食材や生活用品を集め、また障害者就労継続支援事業所からお弁当の製造・提供に協力を得てきました。まちづくり講座の卒業生をはじめ地域住民も積極的に、調理と配布に参加してきました。

子ども支援をしている他の団体や戸田市の子ども関連課（公共機関への設置や児童扶養手当の世帯へのチラシ配布）に周知連携を行うことで、利用の拡大に効果がありました。地域の方達と一丸となって、活動を実施した実感を得ることができました。

定期開催することでパントリーの登録者数も増え、定期利用者の中にはフードパントリーで家庭状況や困りごとなどを聞く機会になってきました。利用登録者数が増えていくことで、物価高騰によりさらに困窮世帯が増えている現状も見えています。フードパントリーに来ている利用者が孤立しないこと、生活や就労を支えるしくみを具体的に考えていく必要性を感じています。



### ○千葉県習志野市

以下に記載した学習支援終了後に、持ち帰りできるようにお弁当や軽食、お米等を提供してきました。食材については、「フードバンクちば」や「パルスシステム」などの団体の他、都内洋菓子店や企業からの提供、さらに地元農家よりお米を提供いただく等の協力体制をつくって実施しました。

習志野市と市の小中学校校長会の協力を得られ、近隣の小中学校4校の全校生徒・児童にチラシを配布。習志野市商店街連合会主催の祭りに参加しPRできました。また、習志野子供食堂ネットワークと連携し、生活困窮家庭の実情を把握することができています。

地域の生協、飲食店、パチンコ店の協力を得て食材、菓子を提供してもらうことにつながっています。



### ○東京都江戸川区

ひきこもり相談支援員の方からの依頼を受けて、個別に食品配達・配布を行いました。認知症を患う親やひきこもりの方のいる困窮世帯へ配達する際、生存確認や見守りも目的となってきました。フードパントリーを行う家庭の多くは、調理ができない人が多く、お湯や電子レンジで食べられる食材を配達。配達することで、心身の健康状態の悪い人や一人で買い物が困難な家庭とも出会い、新たな課題と出会う機会になってきました。



### ○長野県松本市

生活困窮世帯やひとり親家庭への弁当配布及びフードパントリーを実施しました。ほぼ毎週開催し、3家庭にお弁当を配布してきました。安否確認や見守りと合わせて、配達する際には家庭の状況を聞き取り、必要によって相談対応も行っています。さまざまな相談機関や支援団体と連携を持ち、支援が必要な時につなげられるようにネットワークも形成してきました。



### 【各地域から見えてきた成果と課題】

フードパントリーを通して、多様で複合的な課題を抱える困窮状態にある方たちと出会う機会になりました。地域によっては「取りに来てもらう」形式と「家庭へ配達する」形式をとって行ってきましたが、どちらもただ単に食材を提供するだけではなく、家庭や生活状況等、相談を受ける機会ともなっています。また、食材協力のために、地域のさまざまな団体や企業、住民にも地域の困窮問題を知ってもらう機会になり、困窮世帯を支えるネットワークづくりにもつながってきました。

食材を集約、仕訳、渡す・配達というところでは、もともと困窮者であったり、ひきこもり経験の方も手伝いやすく、当事者が担い手となる地域も見られています。

一方で、フードパントリーの時に緊急事態（取りに来ない人や家から出てこない人にトラブルが起きていた、取りに来た時点で所持金がない等）の時にすぐに対応が必要となるなどの課題も出てきました。そのため、食材提供の協力だけではなく、すぐに支援につなげられるネットワークや緊急時対応マニュアルも必要と実感しています。今後は、緊急時を想定するためのネットワークや検討も各地で行っていくことが課題になっています。

## (4) 居場所づくり

### 1) 事業目的

子どもから高齢者まで多様な世代への支援と社会的孤立を防ぎ、安心できる地域の場として日常的な相談窓口や活動拠点となる「みんなのおうちづくり」（居場所づくり）を目指す。

### 2) 事業内容

#### ①子ども食堂

困窮家庭や子どもを対象に食事を提供。食事の中で日頃の栄養摂取状況や健康状態等も把握する。コロナ禍の状況によっては、人数制限やお弁当配布＋ヒアリングを実施する。

#### ②学習支援

発達支援の必要な子ども達の宿題支援。不登校の子供の学習支援。ボランティアとして大学生、高校生に学習支援依頼。ボランティアにはコロナの影響で困窮している学生にも関わってもらうことで、学生の食事支援にもつなげる。

#### ③居場所

一人ひとりの相談や地域の困りごとが語られ、地域で活動する方たちが集う、地域活動の拠点となる居場所「みんなのおうち」づくりを事業実施地域で1か所設置する。

### 3) 実施地域

埼玉県戸田市 千葉県習志野市、東京都（北区、江戸川区、八王子市）  
神奈川県藤沢市、長野県松本市、福井県福井市

### 4) 事業実績

地域	相談延べ人数	備考
埼玉県戸田市	238人	子ども食堂…58人 地域の居場所…180人
千葉県習志野市	875人	学習支援…1回あたり35人の累計
東京都北区	2910人	平均10人×稼働日
東京都江戸川区	480人	nappaカフェランチ予約 学習支援
東京都八王子市	217人	居場所づくり学習会、居場所づくり ネットワーク参加者
神奈川県藤沢市	94人	子ども食堂
長野県松本市	594人	子ども食堂…378人 目的（イベント）カフェ…216人 日常的に居場所利用者累計…2155人
福井県福井市	268人	学習支援…22人 地域café…246人



## 5) 各地域の状況

### ○埼玉県戸田市（子ども食堂を実施）

名称を「地域食堂」と案内することで、子ども・子育て世帯から、独居高齢者や生活困窮者等の社会的な課題を持つ方々まで対象を拡大して開催してきました。多世代に声かけを行うことで困窮世帯等は認識することなく、地域の子どもから大人まで、手づくりの食事を提供し、地域の中で交流が生まれてきました。

フードパントリー利用者にも積極的に参加を呼びかけたことで、フードパントリーの時よりも相談や悩みをしっかりと受け止めることができています。また、これまでにつながった地域の方々も調理手伝いや相談などにも積極的に参加する機会になりました。



### ○千葉県習志野市（学習支援、居場所づくりを実施）

#### i) 学習支援

教育委員会や近隣の小中学校への広報協力を得て開講。学力に応じたカリキュラムを設定して、一人ではなかなか勉強に集中出来ない子どもや、生活困窮家庭で学習環境に恵まれていない子ども、不登校気味の子ども等一人ひとりにあった対応をしてきました。

それと同時に、感染対策も考慮して一部オンライン（スマートフォン、タブレット等の貸し出し等）で対応してきました。講師には近隣の大学生や元学校教師だった方、学習支援の参加者で高校に進学した学生等、様々な人がボランティアとして参加しています。

学習支援に参加する児童の中には、不登校期間が長くコミュニケーション・対話が苦手・全くできない（無言）という中学生もいます。面談時に保護者は学校に戻るきっかけがないことや勉強に遅れている不安を抱えていた一方で、学習支援を利用することで話すことそのものに不安を感じている他にも、自宅以外に安心して話せる場がないことが見えてきました。登校ではなく、安心して地域とつながるためのきっかけが必要であることを実感しました。

そのため、学習支援の場が安心できる場所であると認識してもらえるようにすること、定期的に通うことができることを目標に、話すことを無理強いしないことや否定をしないコミュニケーションなどをボランティアと職員で共有して行ってきました。このことを徹底してきたことで、本人からの対話が少しずつできるようになっていき、学習支援終了時には複数名とコミュニケーションをとることができるようになっていきました。まず、他の生徒と雑談をしたり、遊びの会話が出来る等になり、友達を作り、自分

の事を理解してくれる人をつくってから、学校に登校できるようになる。そういった居場所が必要だという着想が生まれています。

学習支援では、ボランティアの大学生と学習支援修了後に反省会や意見交換会を開催したことで、児童や学生の生活課題も含めて共有したり、ケアや対応についても考え、共有してきたことが効果につながっています。

## ii) 居場所

学習支援に参加した子ども達を対象に、季節に応じたイベント（ハロウィン、クリスマス、節分等）開催し、お菓子や文房具を配布しながら、学習以外の交流の場をつくってきました。

学習支援やイベントに参加した大学生等が、体験を通じて地域の課題への関心を深め、当事業所への就労につながったり、継続的に子供の抱える課題に寄与する仕事を行うことになりました。

## ○東京都北区（居場所）

居場所が、常設したカフェとなっているため、立ち寄りやすく利用しやすい場となっています。相談窓口を特別なこととして設置せずに日常会話の中で出てくる困りごとをボランティアが中心にいていねいに聞き取ったことで、生活の困りごとに対して生活支援を行う直接支援にもつなげることができました。



困窮世帯の方にも提供しやすいように、食材確保を工夫して提供し、家で孤立している人が地域に出る機会が定着し、信頼関係が生まれることで、日常の困難について相談を伝えられる場になっています。

また、コロナ禍でカフェ（食事処）に行くことを控えている地域の方たちと「ポールdeウォーク」を通して、外でも交流できる機会をつくってきました。結果的に屋外で人と交流することと、フレイル対策につながっています。

## ○東京都江戸川区（居場所、学習支援）

毎週3回（月・水・金、予約制）で「nappa cafe」としてランチを提供してきました。

地域の母親たちの「読み聞かせの会」や「発達障害の子を持つ親の会」、「町内会高齢者の会」等、地域に向けたイベントをnappaで開催した時にも地域の方々が利用しています。ランチを提供する中で、イベント参加者がさまざまな悩みや気持ちを語り合う場にもなっています。時には一人で訪れ、子育てで悩んでいることや困っていることをスタッフに打ち明けることで、ひと時でも重荷をおろしていく方もいました。

また、ランチ提供にはひきこもり経験の方も調理を行い、様々な形で社会復帰までの練習の場にもなっています。



### ○東京都八王子市（居場所）

八王子市では、八王子ひきこもり家族会「ぶなの会」、ひきこもり経験者、KHJ（特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族連合会）、八王子保険医療生活協同組合、八王子市福祉課らで居場所づくりネットワーク会議を開催しました。

家族会、ひきこもり経験者等で構成する、「八王子居場所づくりネットワーク」会議を通じて、学習会・懇談会を5回実施しアンケート調査を行いました。当時者や家族会が中心となり、設問作り・調査・分析を行うことを通じて、ネットワークが広がり、調査から見えたニーズに基づき居場所づくりが加速しています。

市の福祉政策課に設置している、ひきこもり支援協議会においても、アンケート報告会を実施予定で行政・社会福祉協議会との連携も深まってきました。

また、生きづらさやひきこもりに関する心理、どのような仕組みが必要なのか、誰もが集いやすい居場所を当事者の体験を通じて考える「居場所づくり学習会・懇談会」を開催してきました。ひきこもり当事者や家族、テーマに関心のある市民が参加して、参加者に対して「居場所に関するアンケート」も行っています。



### ○神奈川県藤沢市（子ども食堂）

1～3月に子ども食堂を開催し、地域の方々が毎回20人ほど来所しました。参加者は高齢者、親子連れが多い中、子ども二人組だけで食事をしていくことが見受けられました。

「子ども食堂にとっても興味があったのだが、なかなか参加できなかった」という地域の方が来所し、寄付もいただきました。

今後食事の提供側としての参加もしていただけないかと声をかけ、地域の方と開催できる可能性も生まれています。



### ○長野県松本市（子ども食堂、学習支援、居場所）

#### i) 子ども食堂

子ども食堂はコロナ禍の影響を受け、お弁当配布（フードパントリーとは別）に切り替えて実施してきました。食事はできなくても、そこで色々な地域の方と話し、時には悩みを吐き出す場となっています



#### ii) 学習支援

学習支援は、子ども食堂開催日のほかに、日常的に呼びかけ、宿題の取り組みから始めました。担当者をつけたことにより、安心して勉強に取り組む姿もありましたが、コロナの影響で継続した利用につながらなかったことが課題です。

#### iii) 居場所

「みんなのおうち集い場ふらっと」として常設しており、常に人がいることで住民が来たいときに立ち寄れることで孤立を解消、コミュニティが広がってきました。また、茶話会、カフェ、カルチャー教室等々を通して、新たな利用者につながっています。地域の中に顕在するさまざまなニーズを基に、以下のようなカフェを毎月開催しました。



・涙カフェ（家族を亡くす等グリーフを抱える当事者が自分の想いを話して、仲間との交流をはかる）

・息抜きカフェ（介護者の精神的に負担を軽減する）

・脳トレの会（高齢者の外出と仲間づくりのきっかけをつくる）  
・フラワーアレンジメント教室・絵をかいてあそぼ（仲間づくりのきっかけに）



常駐するスタッフを配置することで、安心して立ち寄れることが地域住民に浸透してきました。孤立化、生活の困りごとなど気軽に話して、すっきりしてお帰りになる姿を多く見えています。

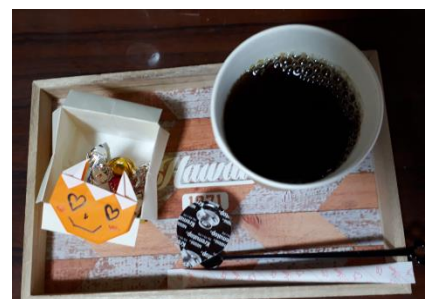
「みんなのおうち集い場ふらっと」も開設して5年目となり、地域の広い範囲に認知されています。ここには、さまざまな人々が来るようになり、1拠点で対応することが困難（手狭・人数が多くて行きにくくなった人等）になり、年度途中で2拠点目を開設しました。今後、同様に様々な場でこの多機能拠点のニーズがあると実感しています。

#### ○福井県福井市（居場所）

事業所の事務所1階の空きスペースで地域cafeを月に2回開催し、前述の相談会と合わせて開放しています。

また、居場所機能として対象を困窮世帯・不登校の児童・生きづらさを抱えた児童のみではなく、地域の小学生全般を対象としました。学校以外の地域の中で、同世代と関わる時間を持つ機会となり、学習の後に工作・折り紙をしたり、綿菓子を作ったりして子どもとの会話の時間となってきました。

その他に、一人暮らしの方、子育て中の方、高齢者、生きづらい方、地域の方など、どんな方でも立ち寄れるカフェとして開設しています。おしゃべり、相談事、ホッとするために皆が集える場を今後目指していきます。



## 【各地域から見えてきた成果と課題】

「居場所」機能として地域に合った形で多様な場を立ち上げて運営しています。千葉県習志野市のように学習支援を軸に取り組むことで、教育委員会や自治体と連携をしやすい「学習」という共通目的で参加する子ども達が仲間意識を持つことができ、学校以外の関係が生まれる機会にもなっています。

また、子ども食堂やカフェという「食事」ができることで、ほとんどの方にとって気軽に立ち寄りやすい場になっています。食事を提供することで、生活支援だけではなく、困窮者やひきこもり当事者に関わらず、誰もが「提供者・担い手」となって共に活躍する場もつくることができました。居場所としては様々な形で運営していますが、どの地域でも「多様な人が来られる場、行きやすい場」を目指しています。

一方で「みんなのおうち集い場ふらっと」のようにさまざまな機能があることで、1拠点で対応することが困難となり、年度途中で2拠点目を開設するなど、多機能の常設拠点があることがいちばん適しているため、今後各地で展開していくことがこれからの課題だと感じています。

また、行きたくても外にでるための一歩がとて大きくて遠く感じる方もいるため、そのために当初計画していたSNSとその活用をより充実して活用させていくことも今後の課題となりました。

## 4. まとめ

### (1) 本事業を通じて

本事業は、以下4つの活動を柱として実施してきましたが、結果的にこれらの活動が単独で実施された例は少なく、同時並行的に相互に関係して取り込まれることが多くありました。

- ① 各地の支援団体・機関と連携し、生活困窮者等の相談会・交流会の開催
- ② 各地の拠点等を利用し、「地域づくり仕事づくりの講座」の開催
- ③ 各地のフードバンクとの連携と各地域拠点でのフードパントリー
- ④ 日常的な相談や活動拠点となる居場所「みんなおうち」づくりの立ち上げ

埼玉県戸田市では、常設型の居場所ぽけっとが日常的な相談を受けるほか、まちづくり講座の企画や運営の拠点となり、企画を進める中で出会った地域のネットワーク団体や個人と共にフードバンクやフードパントリー、子ども食堂の実施へと展開しています。相談内容も多岐に渡りますが、就労相談から就職につながるケースもありました。

福井県福井市の地域caféでは、これまでの当団体の子育て支援事業（学童等）の経験からも子育て中の保護者の相談も多く、子どもたちにとっては放課後の児童館的な遊びの居場所になっています。

事業の柱の設定は統一的に意識したものではありませんが、地域によって柱の実践にも大

きな違いが見られます。このことは、私たちワーカーズコープの組合員個々の課題意識に加えて、集う人々の問題意識、当事者性や地域の特性が大きく影響しているように考えられます。こうした場づくりの第1歩としてまちづくり講座や地域課題のフォーラムなどが仲間づくりにつながっていきました。

## （２）今後の課題に向けて

地域に場（みんなのおうち）が開かれることによって地域独自の複合的な役割が生まれていきます。それは自治体・行政の目的別施設ではなく、そこに集う人びとによって、新たな目的や役割が生まれることにつながっています。あらゆる「場」が市場化、あるいは「目的化」された今日にあって、そこに集う当事者が「場」の目的や役割を作り上げていくことに注目すべきではないかと考えます。

これは私たち自身がこれまで大切にしてきた当事者主体・地域主体の「協同労働」による総合福祉拠点「みんなのおうち」と重なります。一方で、こうした取り組みは極めて公共性が高く、地域共生社会における福祉的な機能も含まれています。そうした意味では地域の多様なステークホルダーによる協同運営に加えて、行政的な位置づけも必要であると考えます。

厚生労働省の重層的支援体制整備事業の参加支援事業、あるいは改正児童福祉法に伴う地域支援事業（子どもの居場所）などもこうした取り組みに活用できるのではないのでしょうか。

コロナ禍による活動規制の意識が徐々に薄まるなかで、小さな地域における活動が再開しています。多くの方々がコロナによる影響という共通経験が意識されるなか、今こそこうした市民・住民自身による場づくりが重要となってきました。

その意味において、昨年10月に施行された労働者協同組合法とその働き方である協同労働を活用して、さまざまな困難にある人と「共に働く」ために積極的に活用していくことが必要ではないかと思えます。住民自らが困難にある方々と共に「地域づくりを仕事に」していくことは、地域で「共同の営み」をつくっていく上で大変重要なことだと考えています。

本事業は、その一步を踏み出す際の具体的なアプローチを私たちに示しているものと考えています。